



2007.1

No. 156

毎月5日発行 定価1部10円(組合員の購読料は組合費を含む)  
1996年3月8日第三種郵便物許可

MONTHLY

# れんごう



<http://www.rengo-hokkaido.gr.jp>

発行

日本労働組合総連合会 北海道連合会 発行責任者 佐藤 富夫  
〒060-0004 札幌市中央区北4条西12丁目 ほくろビル6F TEL(011)210-0050 center@rengo-hokkaido.gr.jp



## 2007年 新年のご挨拶



日本労働組合総連合会  
北海道連合会  
会長 渡部 俊弘

謹んで新春のお慶びを申し上げます。

昨年もまた多くの課題に直面した一年間でありましたが、連合北海道として果敢にチャレンジできたことに感謝の意を表したいと存じます。これもひとえに構成組織、地協・地区連合そして現・退一致の合言葉を掲げ共に運動を創っていただいている退職者連合をはじめ、多くの方々のご支援の賜物と心より御礼を申し上げます。

さて、昨年は駒大苫小牧高校が夏の大会3連覇は逃したものの準優勝に輝き、プロ野球では北海道日本ハムファイターズが北海道移転3年目においてリーグ優勝を果たすとともに、日本シリーズにおいても素晴らしい試合を披露し日本一に輝きました。2つのチームの快挙には、なせば成るといふ勇気をプレゼントされました。本当にありがとうございますという言葉を贈りたいと思います。

一方、政治分野においては小泉政治5年5ヶ月、気がつけば「格差社会」が何の注釈をつけずに通用する社会となっており、後を受けた安倍

内閣はどのようなミッションをもって政権を運営するのか、概念不明のカタカナ言葉が邪魔をするのか、未だ判然と致しません。

しかし、働く者の立場からは、格差が拡大しかつ固定化する歪んだ階層社会は私たちが望む社会の姿ではない、つまり小泉政治の継承者である限りその政権を認知することはできないということは明言できると思います。

連合北海道として働く人々の先頭に立ち、働く人々の意志を明確に示さなければなりません。

幸い、時は07政治決戦と言われる知事選挙を頂点とする統一地方選挙と、引き続き参議院議員選挙の年を迎えました。

勤労者家庭につながる人々が私たちと一緒に意志を示すことで政権が変わり、政治が変わり、社会が変わり、私たちの生活が変わります。

統一地方選挙では荒井さとしさん(現・衆議院議員)が、高橋道政によって空しく失われた時間を取り戻すべく、雄々しく立ち上がりました。知事選挙を頂点とする各級選挙での着実な勝利を果たしましょう。そして、7月には参議院議員選挙を迎えますが、比例区選挙における連合8候補の完勝はもとより、北海道ブロック重点候補の擁立と勝利、選挙区における小川勝也氏の三選勝利に加え、もう一つの議席も奪取するという果敢な取り組みが求められます。

働く者の真価が問われる年、それが2007年。私たちに希望をもたらずターニングポイントの年とすべく、全ての働く者の怒りを結集して勝利しましょう。

皆様にとって幸多い年であるますよう心から祈りつつ、年頭のご挨拶とします。

### 謹んで新春のお慶びを申し上げます

### 日本労働組合総連合会 北海道連合会(連合北海道)

会 長	渡部 俊弘	●	●	松本 容司	●	総 務 財 政 局 長	上野 由照
会 長 代 行	中山 和則	●	●	森 澄男	●	政治センター幹事長	中澤 邦彦
副 会 長	工藤 和男	●	●	佐藤 富夫	●	会 計 監 査	一 同
"	佐藤 泰光	●	●	村田 仁	●	男 女 平 等 局 長	北越 優子
"	菅原 登	●	●	松浦 俊一	●	女 性 委 員 会 委 員 長	村井 弘子
"	高柳 薫	●	●	浅田 明廣	●	女 性 委 員 会 事 務 局 長	黒瀬 千秋
"	藤井 和則	●	●	小檜山 秀昭	●	青 年 委 員 会 委 員 長	高橋 宏尚
"	星 諒	●	●	高瀬 典幸	●	高 齢 ・ 退 職 者 団 体 連 合 会 長	大西 彰
		●	●		●		

他 事務局常駐者一同

# 荒井さとし希望の北海道



荒井さとし氏



渡部俊弘会長



神原 勝氏

北海道の再生・活性化の道

司会(渡部):

荒井さんには、知事選挙に出馬を決意いただきまして、連合北海道の組合員を代表して感謝を申し上げます。

本日は、神原先生とともに北海道の現状、そして北海道の進むべき道筋と展望を中心にお話いただきしたいと思います。最初に荒井さんから出馬の決意をお話しいただきたいと思います。

## 私の政治テーマは地方分権が原点

荒井:

初めて衆議院選挙に出馬する時の私の政治テーマは地方分権でした。政治改革は手段であって、何のための政治改革なのかということ、日本の政治の構造、地域の構造を変える為には、地方分権しかありえない。

税金の使い道を効果的に使う方法を一番よく知っている地域が、税の使い道を主体的に決めていくということが一番大切な事で、霞ヶ関の国の役所で決定するからムダやムリが生じています。それを改革するシステムが地方分権です。

ここへきて北海道はこの動きは逆行しているのではないかと思います。地方分権とは自立をしていく事です。東京からいかに自立するか、自立型経済をどうつくるのか、それが最大のテーマですから、北海道はそれとは逆行している感じがしてなりません。

一方では小泉政権の市場原理主義の政治で、北海道がいま危機に瀕している、大好きな北海道のために今立ち上がらなければいつ立ち上がるのだろうかという思いで今回決断したしだいです。

司会:

北海道、地方の現状等について、神原先生はどうとらえられていますか。

## 党派対抗から、地方、中央対抗型の政治に

神原:

国も自治体も厳しい財政状況の中に置かれていて、

# 熱い思いと語る

出席者: 荒井 さとし氏 知事選挙候補予定者(衆議院議員)  
神原 勝氏 北海学園大学教授  
司会: 渡部 俊弘 連合北海道会長

これは誰が政権を取ろうと、市町村長に誰がなろうともこの現実からは逃れることは出来ない厳しい運営が迫られています。

財政が厳しいという事は、党派的な政策選択の幅も相当限られてくることになり、党派対抗の政治から地方、中央対抗型の政治に移って行かざるを得ない。少ない予算を効果的に使う為には分権自治で行っていく以外はないからです。

しかし、地方からの発信がなければ分権改革を進めていくことは難しいと思います。北海道の状況を考えてみますと、荒井さんが逆行しているのではないかとおっしゃいましたが、私もそのように思います。

高橋さんが知事になって、「北海道がやるべき事は国の政策メニューの中に全て揃っています」と一番最初におっしゃったときには、ショックを受けました。北海道が自分の頭で考える政策ではなく、国の政策に従っていればなんとかなるといふ、国の官僚の発想で知事になられたと思いました。

## 荒井:

中央省庁が新しい法律、制度を作る時に評価基準や政策は、地方の現場に存在している矛盾点や改善点を見つけて出していく作業を通じてできてきます。ですから、現場の矛盾点、問題点をはっきり伝えてくれる人や地方が一番大事になります。

最近の道庁はどこに問題があるかを率直に話す、風土が少し消えてきたような気がします。かつての道庁は霞ヶ関の中で一定の評価を受けてきたのですが、極めて大事な道庁文化が失われつつあると心配をしています。

## 北海道には優れたまちづくりがたくさんある

## 神原:

そうですね。全国どこも厳しいわけでそれぞれの課題を抱えていて、北海道だけが特別厳しいと考えたことはありません。北海道の中でも優れたまちづくりをしている自治体がたくさんあって、例えばニセコ町は2001年に自治基本条例を最初に作り、今年の5月に栗山町は、全国

で初めて議会基本条例を定めました。まだ半年しかたっていないけれども全国から900人の人が押しかけて、今全国に広がっていきこうとしているわけです。下川町の森づくりや本別町の福祉、中札内村の農業など、北海道の中に優れたまちづくりはたくさんあります。

その地域は道庁の側から見ると北海道の一部としてだけ見ていて、それが北海道の基礎だという考えではないようです。道庁は市町村で今何が起きているかを考えなければ自分の仕事は作っていけない。そのところが後退しているのではないかと思います。

堀知事の時代の最後はそのような事を強く意識するようになって、知事と市町村長が会議において議論するような場面が常にたくさんあったのですが、いまは事実上機能しなくなっているような状況だと思います。

## 司会:

この事は知事のリーダーシップが問われていることであり、また、道の役割は何かという問題でもありますね。

## 市町村はパートナー、支庁の役割こそ大切

## 荒井:

一番最初にやるべきことは知事と職員との一体感だと思います。それからパートナーである市町村を大切にすることです。

いまの道は、支庁制度を縮小するといっているようですが、私は逆だと思います。市町村の想いを共有できる支庁こそむしろ大切です。道職員は支庁にどんどん出ていってもらって現場をしっかりと把握してもらい、地域で一番苦しんでいる道民と直接対話して政策を考え、それを総合的に判断するのがトップリーダーの仕事ではないかと思っています。

知事と職員が火の玉にならなければこの難局を切り抜けることはできません。こんな訴えが希薄だという気がします。

## 神原:

そうですね、私もその考えには大賛成です。



高橋知事は自民党との関係で物事を処理するタイプです。仮に政権が変わったら知事はどうなるのかと思ってしまうですね。国の政権がどう変わろうとも知事は知事であるというところをはっきりしなくてはいけないと思います。そうなると知事のパワーはどこから出てくるのかと言えば、市町村を与党にした知事というくらいにならないと、政策の構想力も生まれませんし、国と対抗するときのパワーも生まれて来ない。

もう一つは、せっかく堀知事が都道府県で初めての行政基本条例を作ったわけですが、自民党の抵抗があって十分なものではなかったけれども、あれは3年を越えた時点でもう一度見直す事になっているんです。高橋知事は3年をすぎても、見直しについてまったく言及もしていません。

行政基本条例を自治基本条例に高めて、道民参加、市町村参加、情報公開、総合計画、政策評価など道政のしくみをしっかり確立することが不可欠です。

#### 荒井:

北海道の市町村財政が非常に厳しくなっています。もちろん経済事情もあるのですが、3年前の国の地方交付税改革の影響をもちに受けて一番困ったのは北海道だったわけですから、北海道は大きな声を上げて「国の借金のつけまわしはやめてほしい」と言うべきだったと思います。

#### 神原:

財政問題で言えば今自治体がこういう窮状に陥っているのは、構造的な問題と自己責任の問題と両方あると思います。前者で言えば国はバブル崩壊後の景気対策として公共事業を乱発し、その元利償還の多くを地方交付税の中に入れてしまったわけで、これが大変な財政政策の失敗だった訳です。

その後、分権絡みで三位一体改革になってくる。地方によってアンバランスが出てきますから、交付税

で埋めていきますが、その交付税自体を押さえ込んだために、借金と新たな格差がダブルパンチで起きているわけです。

#### 司会:

道、市町村おしなべて極めて厳しい財政状況にあります。

#### 神原:

実際の財政難は国も自治体もこれから半永久的に背負っていかねばならない宿命です。その前提に立って、少ないお金でいかに政策的な成果を上げるかが問われています。そこで大事な点は点と線の行政から面の行政への転換です。

北海道は面の行政をどのような形で行っているかというと、やっていないわけです。支庁も出先で窓口行政をやっているだけで、地域を面ととらえて総合的な政策をやっているわけじゃありません。

国土面積の4分の1を占める北海道で、地域ごと面の政策が出来ないという事は効率的な財政運営、政策的な効果を上げようとするときは致命的な弱点です。

国も道も縦割りでお金を地域にばら撒いてきたわけで、面としての地域を市町村と一緒に検証できるような枠組みを、これからどう持つかが大きな問題だと思います。

#### 司会:

地域主権を土台とした新しい国の形作りにはしばらく時間がかかるのではないかと思います。当面は道内分権、基礎自治体のかたちをどうするのか、その時に道庁組織がどう関わっていくのか問われると思うのです。また、市町村合併についてもこのままでは進まない状況ですが。

### 求められる、連合自治を組み込む多様な地域づくり

#### 神原:

高橋知事は合併以外の選択肢はないという形で行ってきて、結果としてあまり進みませんでした。今、市町村が連合自治を強く掲げるようになってきたために、若干、方針転換をせざるを得なくなって、7月に知事の構想では「基礎自治体の強化は合併と同時に広域連携という道もある」という事で二つをようやく認めるところまでできましたが、基本は合併という姿勢に変わりはありません。

連合自治、つまり自治体間協力ですが、これをどう組み合わせていくかを抜き合併も進まない、これが一つの大きな課題です。連合自治を組み込みながら自立や

合併の道を探っていく。そうした多様な市町村のありようを探っていくための場を作るとすれば、道の第2次保健医療福祉圏 - 比較的高度な専門性の高い医療を中心にした保健福祉などの地域の単位 - と、市町村の広域市町村圏は重っていますし、保健所の区域、ごみ処理の広域計画の区域も重なるのです。

とりあえずこのような地域枠組み中でお互いの協力関係を構築する事を検討してみたらどうか。このような具体的な場に道も加わって行っていければ、自治のかたちづくりとともに多様な政策論が出来ます。

その中に民間の人たちも入っていけばいい。そうすると支庁がどうあるべきか、道から市町村への権限移譲はどうあるべきかの議論も政策と結びついてできることになり、これが現実となれば、新たな地域の発展の姿が見えてくるのではないかと考えます。

荒井:

今の中央の合併促進法は、学校、警察、消防署をワンセットにして、そのような仕組みを一律にして合併を考えています。現行の規模だと財政が成り立たないので財政を効率化するという意味の合併です。住民に対するサービスの向上や質の高さなどの観点からの合併という視点ではありません。

そうではなく、ごみを集める施設や消防署などを単独の町村で持つのはたいへんだから周辺地域と広域連合を組んで、広域的な機能に移していくというような工夫の余地がたくさんあるんじゃないか。それを促進するのが政治であり道の役割ですよ。

北海道は、例えば奈井江町を中心にして介護、国民健康保険の広域連合をはじめました。これは大変大胆な実験で、成功するといいなと思っています。これをもっと広げていくべきだと思います。



神原:

奈井江町の空知中部広域連合の他、大雪地区広域連合も立ち上がっています。来年の4月には後志全域で広

域連合がスタートします。そのような動きは道内各地に広がってきていますが、よくみると第2次保健医療福祉圏なんですね。現実にそうならざるを得ないんです。

荒井:

地方行政というのは、人の命にかかわる部分で医療サービスは重要だと思っています。今、少子高齢化が国の政治、地域のテーマでもあります。産婦人科のお医者さんがいないところで子供を産むことは無理ですよ。国は本当に分かっているのかと強く感じます。その意味では、第2次保健医療福祉圏に着目した道内の動きは、地域にとって現実的なのでしょうね。

## 北海道版三位一体改革で北海道のかたちを

神原:

そのように考えると地域に何が足りないかどうするべきかと議論がわいてくるのだけれども、支庁を改革するといっても道の場合は、このような議論へは連動しないんですよ。

たとえば21の地域づくりの医療や福祉を中心として考えていこうという事になれば、それに対応した支庁のあり方とはどのようなものかという議論にもなっていくのですが、今の道の方針では繋がらないわけです。私は、北海道版三位一体という事で道州制特区も含めた道の再編、支庁改革、連合自治を中心とした合併も含めた市町村の再編、この3つは一体的に考えないと北海道の自治のかたちが見えてこないという事をずっと主張してきましたが、道はそれぞれに個別に考えるようになったけれどもお互いの関連付けはないから前に進めない。

司会:

大変興味深いお話をありがとうございます。今の話にも関わりまして道州制特区法が北海道にもたらす影響についてどうお考えでしょうか？

## 道州制特区法では北海道が普通の県になる

神原:

道州制問題をどう考えるかとなれば2つの要件があると思います。

1つは全国的に考えたら府県を統合をして広域自治体としての道州にまとめる都道府県合併をやるという事と、もう1つは合併した都道府県を道州にして権限移譲をするという事のふたつの要素から成り立っているわけです。

道州制をやるという事は横路道政の最後の時代から堀時代を通じて北海道が継承してきた問題です。北海道分権を道州制という名において進める事はいい事だ



と思います。それにしてもこんどの道州制特区法は、あまりにも志が低いのではないか。知事は小さく産んで大きく育てるといふけれども、これでは大きく育たないと思います。

政権与党、小泉首相の思いつきでこれを政治の俎上に乗せたのが間違いの始まりだと思います。今まで横路時代、堀時代を経て北海道分権という事は本州とは違う意味を持っているとしてやってきたわけだから、北海道の総意としてこれにどう対応するかをもっと道民に投げかけて、パワーアップして道内世論を盛り上げて一定の構想を持って小泉首相にやりますかというくらいの事がないと、できる問題ではないです。ここでも市町村参加が抜け落ちています。

#### 荒井:

道州制や地方分権は地方と国との戦いの構図だとはっきりとらえておかないとだめです。地方分権を国から貰うもの、許可されるものだという概念でとらえると絶対進むはずがないのです。国の官僚は自分の権限を放したくないという体質なので、それを剥ぎ取るくらいの気迫、あるいは政治的なタクティクスというものを準備しておかないと絶対にできません。

今回出来た道州制特区法は、普通の県になるという法案です。先人が苦勞して勝ち取ってきた北海道だけの特例を全部放り投げて、普通の県になりますと宣言する政治家はいかがなものでしょうか。

法律は作る時が最大のパワーで、その時に出来ない事が後になって出来るなんてことは有り得ないのです。結果的には、狙いとしている北海道特例が少しずつ離されていく手段として使われている。

道州制とか地方分権の最大の眼目は国から税財源を移し替えることです。税財源は、例えば消費税のうち1%が地方に来ていますが、道州制特区なんだから北海道の消費税は全部道によこせという主張くらいは、すべきだったのではないかなと思います。

#### 司会:

北海道の経済状況はあまり芳しくない状況が続いています。もうちょっと元気な北海道にしてもらいたいというのが道民の願いだと思いますが。

食糧とエネルギーなど北海道は可能性を秘める。まず、自己発見。

#### 荒井:

私の地域起こしや改革の考え方の基本は、人材育成です。上杉鷹山が米沢藩の財政再建に成功したのは有名な話ですが、米沢藩の優秀な人を江戸で英才教育をしました。その人たちが新しい産業を作りだしたのです。北海道はもともと人材を育てていく土壌のある地域です。人材の活用、人材の育成に力を注ぎたい。

最近、ばんえい競馬の話がありますが、ばんえい競馬は北海道遺産で全国どこにもない馬文化なわけです。北海道の誇りであり、エネルギーがあります。北海道の伝統とか北海道の地域に根ざしているものにもっと着目すべきだと思いますね。

自分たちの伝統的な、あるいは蓄積された技術の中にこそ産業興しの芽があると思っています。そういう意味では、北海道の持つ強さとは、やはり戦後からずっと続いている食糧基地であり、エネルギー基地です。

食糧とエネルギーをきっちり押さえれば、「北海道はやっかいどう」とは絶対言われません。日本に対して大きな貢献をするというポジションを得ることができると思います。

食糧のほうは農林水産業の波及の産業も起きていますね。それだけにとどまらず、北海道の農業構造というのはどちらかというと米とか芋デンプンとか政府管掌の作物が多く、農業自体が非常に官依存型の体質がある。そこをどう転換して、市場に切り込んでいくのか、市場性を持った体質に切り替えていく。その中で新しい芽が生まれてくると思っています。

それから、いま石炭は斜陽になりましたが、低廉なエネルギーを使った発電、あるいは新しい技術の電力の開発、エネルギーの開発、あるいはサハリンのガス・石油のパイプラインをどうするか、苫小牧に眠っているエネルギー源をどう使っていくのか、そういうことをもっと真剣に考えていいのではないのでしょうか。エネルギー問題というのは北海道の大きな可能性を秘めたものだと思います。

#### 神原:

そうですね。どうしても北海道の場合、行政も道民もそうですが、北海道は遅れた地域なんだと、あまり誇る

べきものを持たない地域なんだという自虐的な北海道観、そういうものが非常に強いと思います。

北海道の中にどれだけ良いものがあるという自己発見をまずきちんとやらないとスタートできないのではないか。道民も市町村も、北海道の中の地域の本当の姿を見えるようになることが大切です。

地域の経済というのは外から何かを持ってくるということはもうほとんど不可能です。企業を持ってきたって調子が悪くなったらすぐ出ていくんですから。後はどうするんだとなるんで、やっぱり必然性のあるまちづくりというか、地域にとってよそからのものでは代替できないもので大切なもの、雪だって資源になるわけだし、優れた第一次産業、自然環境などいろいろある。

そういう必然型のまちづくりにつながる地域資源を発見する。それが出発点になります。そうすると誇りも生まれてくるし、本当の力がそこからついてくるのではないか。

荒井:

ぼくは東京で働いていましたが、北海道出身者は北海道がものすごく好きですよ。北海道関係者の集まりが東京にいろいろありますが、ほかの県に比べて群を抜いて熱く語ります。北海道のために何かしてやりたいという人がほんとうに多いですよ。

司会:

そういう人たちのいろんな力を総結集したいですね。

司会:

最後になりますが、プロフィールをみますと、子供のころ父親を亡くし母子家庭で育ち、そして、東京大学で農業を学んだとありますが、政治家「荒井さとし」の原点をお話しただけならばと思います。

荒井:

私の父は小学校6年のときに亡くなりました。教育者である父が、ずっと言い続けていたのは、「教育というのは決して人を見捨てない」ということでした。ですから、私も教育とか人づくりとはそういうものなのかと、今でも思っています。

農林省の就職試験の面接のとき日本が世界に誇るプロジェクトが3つある、それを挙げてみると言われました。当時の常識として八郎潟の干拓事業、愛知用水の事業、この2つはすぐ挙げられたのですが、3つ目が挙げられず人事担当者から「3つ目は君の生まれ故郷の篠津の開拓原野事業だ。これは八郎潟や愛知用水に匹敵する大事業として評価されている。君は自分の生まれ故郷の中でそういう大事業が展開されていることを知らなかったのか」といって雷を落とされました。

それ以来、自分のふるさとで何が行われているのか、何に苦しんでいるのか、それを行政の立場からどんなふうに変更できるのか、ある政策を提示したら、それによって自分のふるさとはどんなふうになっていくのか、肌感覚として知らないだめだと考えてきました。

その延長で、私が最後にやるべきことは自分のふるさとのために身を捨てることなんだろうと思っています。

司会:

本当に今日ありがとうございました。荒井さんにはぜひとも新しい年、北海道の明日というより今を切り開くリーダーとして北海道のトップになっていただくように心から祈念をしておりますし、私ももまたその実現のために精一杯がんばっていきたいと思います

2006年12月24日、札幌市内にて

荒井さとし はこんな人



フロンティア精神を持つ生粋の道産子

石狩管内当別町生まれで、札幌の小学・中学・高校を卒業した生粋の道産子。道産子のDNAであるおおらかな風土、互助の精神、希望への挑戦、自然への畏敬など、道民の絆を大切にします。

苦労人で弱い人を守る人

12歳で父親を亡くし、母子家庭で育った苦労人。弱い者を更に強くする政治に怒りを燃やし、公正な税制・社会保障の確立に努めるなどの思いやりのある人。

農林水産業に強い人

23年間、農林水産省や道農政部に勤めるなど、北海道の基幹産業である第一次産業に強い人。

政策通で、即戦力の人

国会議員として約10年間、また5年間、道庁に勤務するなど、経済・産業・環境・福祉など、あらゆる政策に精通し、即戦力となる人。

気さくで誰からも愛される人

若者や女性のエネルギーを引き出し、よさこいソーラン祭りを実現させるなど、気さくな人。よさこいソーラン祭り顧問、毎週、地域FMに出演し、政治をわかりやすく解説するなど、飾らない大衆政治家。

チャレンジ精神と行動力のある人

組織や団体の推薦を受けず、政治改革のための日本新党から出馬するなどチャレンジ精神と行動力のある人。

# 疲弊する北の大地・北海道

## 道民の生活はますます厳しくなる

< 道民所得は4年連続減 - 道内経済の姿を浮き彫り >

平成16年度 道民所得総額は14兆3078億円(前年度1.1%の減少)  
一人当たりでは前年より2万1千円減り253万5千円  
全国平均(282万6千円)との差額も、前年度の25万1千円から29万1千円に拡大

< 就学援助 >

大阪	2	79.0%
東京	2	48.0%
山口	2	32.0%
北海道	1	93.0%
高知	1	79.0%
全国平均は	1	28.0%

2004年度の就学援助率【保護者が生活保護を受けている子どもに加え、市町村が独自の基準で「要保護に準じる程度に困窮している」と認定した子どもが対象】  
4年間で給食費や学用品などの援助受ける児童・生徒が4割増  
背景にはリストラ・失業・給料の低下等々

< 生活保護世帯 >

区分	平成14年度	平成17年度
北海道	7万6,952世帯	8万8,604世帯

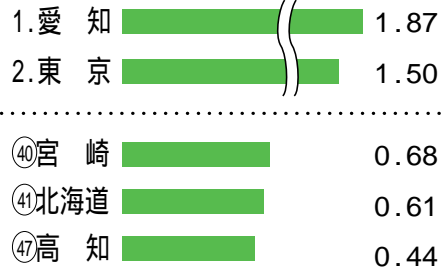
保護率(1千世帯あたりの保護世帯)は23.5で全国一位(全国平均は11.6)

## 続く雇用環境の厳しさ

< 完全失業者の推移 >

区分	平成17年平均	平成18年7-9月期
北海道	5.3%(15~24歳10.7%、25~34歳6.6%) 特に若年者の雇用の厳しさ続く	5.3% 15万人
全国	4.5%	4.1%

平成18年10月の現状



< 有効求人倍率の推移 >

区分	平成17年平均
北海道	0.53倍 平成14年度と比べ0.11ポイントの回復でしかない。
全国	0.94倍 平成14年度と比べ0.40ポイントの回復。

## 一次産業の基盤は深刻

< 農家戸数 >

平成12年 69841戸 平成17年 59,137戸 1万704戸の大幅減 (15.3%)

< 農家後継者の確保 >

平成17年で後継者を確保している農家は3割程度の低水準で推移。

< 農地の耕地放棄地の増大 >

耕地面積は平成2年120万9千ha 平成16年116万9ha 農地遊休化が進行  
耕地放棄地は平成12年1万5,422ha 平成16年1万9,465ha 26.2%増加  
(同時期の全国の増加率12.2%を上回る)

< 漁業就業者 >

平成16年で2万9130人で3万人を割り込む。男性就業者で60歳以上が34%で高齢化も深刻。



# いま、北の大地を立ち直す

【プロフィール】

1946年 石狩郡当別町生まれ。(60歳) 札幌豊平小、札幌八条中、札幌南高、東京大学卒業。1970年 農林水産省入省。1986年 北海道庁出向。1991年 2度目の道庁勤務で知事室長。1993年 衆議院議員に初当選。現在、4期目。2004年 北方領土特別委員長。2006年 衆議院・議院運営委員会筆頭理事を務める。

家族構成:妻、1男1女  
趣味:スキー、乗馬  
血液型:O型  
星座:ふたご座  
愛読書:司馬遼太郎「竜馬がゆく」  
尊敬する人:新渡戸稲造  
座右の銘:無私、まっすぐ駆ける

荒井さとし後援会

「希望の北海道を拓く会(略称:拓く会)」  
〒060-0042 札幌市中央区大通西5丁目昭和ビル6F  
TEL.011-233-2811 FAX.011-233-3188